

【生徒の実態】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく素直な性格であり、上級生やリーダーを中心にまとまりのある行動ができる。</li> <li>・自尊感情がやや低く、成功体験が乏しい。</li> <li>・意見を積極的に発表することに苦手意識がある。</li> <li>・授業では、単元内自由進度学習に取り組んでおり、課題を見付け、進んで学習に取り組む生徒が多い。</li> </ul>
【地域の実態】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の教育的関心が高く、積極的に協力を。</li> <li>・地域は人づくりを教育の柱としている。</li> <li>・豊かな自然がある。(海・山・川)</li> <li>・地域には、農業、林業、漁業、畜産業など豊富な人材がある。</li> </ul>

【学校教育目標】		
創造的で、自律し、対話・協働で進む生徒の育成		
【向ヶ丘実習の目標】		
探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性
地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさとともに、地域の人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。	地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査し得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。	地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。
重点的に育てたい資質・能力		
批判的に考える力、多面的・総合的に考える力、他者と協力する力、進んで参加する態度、多様性		

【保護者の願い】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを持って課題に取り組み、友達と協力して活動に励んでほしい。</li> <li>・将来の見通しを持ち、将来なりたい職業を見据えた基礎的な学力を身に付け、その力をもとに挑戦し続けてほしい。</li> </ul>
【地域の願い】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のよさを知り、地域を支える人材として成長してほしい。</li> <li>・地域の企業や人材を利用して、学習に取り組んでほしい。</li> </ul>

【全校で行う学習活動】：ESD/海洋教育・海洋学習

時間	月	日(曜日)	時数	大項目	内容項目	内容			講話 主な内容	担当 及び 講師	input/output	SDGs、ESD、海洋教育との関連
						1年	2年	3年				
1	4月		1	ガイダンス	回数	1年間の流れ・計画について 海のことを学ぶのは1つのきっかけ 探究テーマを考える			ESD・総合的な学習の時間	input		
2					講話	VUCA・SDGs・Society5.0 なぜ、このような学習が必要なのか			探究学習コーディネーター	input		
3			3	地域を知る	講話	地域を知る 自然・地理 防災			小泉史談会	input		
4	5月				講話	①講話によるインプット		海のこと全般	気仙沼市危機管理課	input		
5					講話 課題設定1	①課題の設定 → ②情報の収集(基礎的な調べ学習)			東北大学 須賀利雄先生 各学年	input		
6					講話	①講話によるインプット		地球温暖化	ケンクロ・オノさん 学年	input		
7					講話 課題設定2	①課題の設定 → ②情報の収集(基礎的な調べ学習)			気仙沼海の子プロジェクト 谷山知宏先生、村上克弥先生 学年	input		
8					講話	①講話によるインプット		川	3710Lab. 田口康大先生 学年	input		
9					講話 課題設定3	①課題の設定 → ②情報の収集(基礎的な調べ学習)			KUBU 佐藤東真さん、鈴木宗一郎さん お茶の水女子大学 里浩彰先生 学年→グループ(ゼミ形式)	input		
10	6月		10	①課題設定	講話 課題設定4	①課題の設定 → ②情報の収集(基礎的な調べ学習)		海的设计	学年	input		
11					講話	①講話によるインプット		海ごみ	佐藤東真さん、鈴木宗一郎さん お茶の水女子大学 里浩彰先生 学年→グループ(ゼミ形式)	input		
12					講話 課題設定5	①課題の設定 → ②情報の収集(基礎的な調べ学習)			学年→グループ(ゼミ形式)	output		
13					発表	課題発表会			グループ(ゼミ形式)	input/output		
14	7月		4	②情報の収集	情報の収集1	②情報の収集(調べ学習) フィールドワーク 等			グループ(ゼミ形式)	input		
15					情報の収集2	②情報の収集(調べ学習) フィールドワーク 等			グループ(ゼミ形式)	input		
16			2	発表	課題発表会				学年→グループ(ゼミ形式)	output		
17												
18												
19												
20												
8月 夏季休業 資料収集やフィールドワークを行う、探究学習コーディネーターのアドバイスを受けるなど、有効に活用する												
21					情報の収集3	②情報の収集(調べ学習) ※2回目フィールドワーク 等も可			グループ(ゼミ形式)	input		
22	9月		6	②情報の収集	情報の収集4	②情報の収集(調べ学習) ※2回目フィールドワーク 等も可			グループ(ゼミ形式)	input		
23					③整理・分析1	③整理・分析						
24					情報の収集5	②情報の収集(調べ学習) ※2回目フィールドワーク 等も可			グループ(ゼミ形式)	input		
25					③整理・分析2	③整理・分析						
26					③整理・分析3	③整理・分析						
27					まとめ	④まとめ・表現(プレゼンテーション等作成)			グループ(ゼミ形式)	output		
28	10月		10	④まとめ	まとめ表現1	④まとめ・表現(プレゼンテーション等作成)			グループ(ゼミ形式)	output		
29					まとめ	④まとめ・表現(プレゼンテーション等作成)			グループ(ゼミ形式)	output		
30					まとめ	④まとめ・表現(プレゼンテーション等作成)			グループ(ゼミ形式)	output		
31					まとめ	④まとめ・表現(プレゼンテーション等作成)			グループ(ゼミ形式)	output		
32					まとめ	④まとめ・表現(プレゼンテーション等作成)			グループ(ゼミ形式)	output		
33					まとめ	④まとめ・表現(プレゼンテーション等作成)			グループ(ゼミ形式)	output		
34					まとめ	④まとめ・表現(プレゼンテーション等作成)			グループ(ゼミ形式)	output		
35					まとめ	④まとめ・表現(プレゼンテーション等作成)			グループ(ゼミ形式)	output		
36					まとめ	④まとめ・表現(プレゼンテーション等作成)			グループ(ゼミ形式)	output		
37					発表	グループ別発表会			グループ(ゼミ形式)	input/output		
38	11月		3	発表	グループ別発表会				グループ(ゼミ形式)	input/output		
39					発表	グループ別発表会			グループ(ゼミ形式)	input/output		
40					発表	グループ別発表会			グループ(ゼミ形式)	input/output		
41					発表	グループ別発表会			グループ(ゼミ形式)	input/output		
42					発表	グループ別発表会			グループ(ゼミ形式)	input/output		
43	12月		3	発表	発表会				グループ(ゼミ形式)→全校	input/output		
44					発表	発表会			グループ(ゼミ形式)	input/output		
45			1	振り返り	振り返り				グループ(ゼミ形式)	output		

※大項目・内容の①～④は、「探究的な学習における生徒の学習の姿」に対応

